
星の下の世界

りりいー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の下の世界

【著者名】

りりいー

【あらすじ】

どこにでもいるような小学5年生がある世界に飛ばされて…

序章

ボクは

深い

深い

闇から生まれた。

「アキラ、早くしろよっ」

『まつ待つてよ、雅人くん！』

「休み時間終わっちゃうぞっ」

『うつうん・・・』

ボクの名前はアキラ、小学5年生。

雅人は、ボクの親友。

今は、給食当番の仕事が終わって、サッカーをしに校庭に急いで向かってるところだ。

雅人は階段を10段目から跳んでいった
ボクにはそれさえ凄いと感じた。

雅人は、運動神経もいいし頭もさえる！

それに比べてボクは、運動もそこそこで勉強もそこそこできるだけの凡人。

だから雅人は大親友であり、ボクの憧れの人。

「おー雅人とアキラ、こっちこっち！ 今0対2で負けてるんだ、雅人なんとかしてくれ！」

「任せろー。」

雅人はそう言って休み時間が終わるころには3対2で楽々と逆転させたのだ。

その日の放課後、ボクはいつものように雅人と帰った。

僕達の日課は帰りに公園によることなんだ。

鉄棒やジヤングルジムで遊んだり、バスケットボールをしたりなんかする。

この日はバスケをしたあと休憩がてら「ブラン」に座っていた。すると雅人は急に

「俺、旅に出たい……この世界は俺には小さいと思う。異世界に行つて、剣とか銃でモンスターをぶつ倒すんだ！ 異世界いけないかなあー！」

『雅人くんは強いもんねっ、きっとそーゆう世界に行つても上手くやれそう（笑）』

「何いつてんだ？ お前も一緒に決まってるだろ！」

『えつボクも？…』

「俺達親友だろ！ どこに行くにも俺とアキラは一緒だ！」

『ありがとう。でもきっと、ボクなんの役にも立たないよ？』

「お前なあ……お前はもつと自分に自信もてー。」

『うん・・・そうだね・・・』

暗くなつてきたのでバイバイをして、ボクは自宅に向かつた。

その途中黒猫がアキラの前を横切つた。

(なんだか不吉だなあー)

そう思いながらアキラは自宅に急いだ。

アキラの家は都内に一軒家をもつていて、両親共に働いていて父は外科医、母は食品衛生検査をする人らしい。だから、お金は沢山もつている。ただ、アキラが学校から帰つてもまだ2人ともいいのでいつも1人なのだ。

『ただいまー・・・』

・・・

(たまには「おかえり」つていつてもらいたいな・・・)

アキラがテレビゲームをしていると

ピンポーン

チャイム音がなつた。

『はーい』

玄関モニターをみると、誰も戻っていない・・・

『いたずらかな?・・・』

するとまた

ピンポーン

『なんだかう・・・』

アキラは興奮をだして玄関に行きドアを開けてみると、そこには黒猫がちよこと座っていた。

『お前わつもの黒猫? どうしたの?』

「「やつと見つけた・・・・もう一人のボク。」」

目が覚めると、そこが何処だかわかるのに時間がかかった。水の中のようだが呼吸ができる。水はとても透き通つていて魚達が泳いでいた。遙か上空に太陽の光が水中に差し込んできてとてもキレイだ。アキラは上に行こうと泳ぎ始めた。

水面にでるとそこはどうやら湖のようだった。
湖のまわりは野原が広がりその先には森が見える。

（此處はど？なんでこんなところにボクはいるんだ？）
水の中でも呼吸できるし……ってかなんで裸？さっきまで家にいたのに……）

けれどもアキラは不思議と不安はなかった。ただ裸で外を歩くのを落ち着かなかつた。

（…………これ夢か！……いつ寝ちゃったんだろう……）

とうとうアキラは湖からでて森にはいってみた。

森にも木々の青く生い茂つた葉と太陽でできた木漏れ日が田の前に緑色のオーロラを作りだしている。鳥たちの騒りもどこからか聞こえてくる……

しばらく森を歩くと道にでた、すると向こうから人の声が聞こえてくる、

声の方向から馬車がやってくるのが見えてきた。

（本物の馬車なんて初めて見た！——まあ一夢だけど（笑））

アキラが初めてみた馬車に感激していると、馬車はアキラの前で止

また。

「おー、ベルセースビ了吗？」

「それが、なにせら馬が進もうとしないのですよ……」「なんだと？」

馬車から出でてきたのは、がつしりとした体格の男だった。その男は馬車から降りるとすぐニアキラに気がついた。

「お前、こんな森の中でしかも裸でなにをやつてゐる？」

『ぼ・・・・ボクは・・・つてこね夢ですか？』（笑）『

「なにを言つてこる、お前寝ぼけてるのか？』

『えつ・・・・・いやあ・・・・』

「何処から來た？」

（ビ）からつて……（

『岡田寺？』

「コウノンジ？ 知らぬな、よほど遠くから來たのだな……お前これが「じに」に行く？ もし時間があれば私の城でお前のそのコウノンジとこつといひの話を聞かせてはくれないか？」

「ベルセ様、いくらお話が好きでもこんな身の上もわからぬ者を城へとつれていくなんていけません！」

「いいではないか、もしもの時の準備はきちんとしてあるのだから。

どうだ、来てくれるか？」

『はあ・・・別にいいんですけど・・・』

「そうか！ そうか！ なら早く城にいこう」

「うう、ボクはゲームセンターで布を渡してくれた。

(おじさん強引だなー・・・でもいい人)

「まだ、お前の名前を教えてもらつてないぞ？」

『あつ・・・・・柊
アキラです。』

「ヒイラギ アキラか・・・私はテーバイの魔王、ベルセだ!」

「えつ王様？」

(五様) てよりその体格部隊長でしょ? 笑)

「ほら私の城が見えてきたぞ。」

窓の外をのぞいてみると、いつしか森ではなく町並みが見え向こうに大きい城が見える。

城に近づくにつれてその大きさに啞然とした。
大きな門に、とても頑丈そうな城塞と沢山の兵士たち。

『トキワガル』

「「」なんのまだゼウスの世界ではたいしたことないぞ。」

『ゼウス？・・・・つて神様のゼウス？』

「何をいってー。ゼウスはこの星の名前ではないか。」

『星の名前つてこー地球じゃん！』

「チキュウ？ また知らない名前がでてきたな。ますますお前の話が楽しみだ。」

(話しかみ合つてないよ・・・それにしても夢にしては設定細かいなあ・・・まあ面白そうだしいか。ボクもせめて夢の中だけでも雅人みたいに冒険してみよー)

城塞の中に入り馬車を降りると兵士やメイドがみんなベルセ王に深いお辞儀をした。そして2人の兵士が王の両脇にすばやくついた。(本当に王様なんだ・・・)

「アキラにしちだ。」

『あつはいー』

ベルセ王についていくと城の中はとても広い廊下で奥まで繋がっていた。その廊下にはいくつもの重そうな扉がある。その中の1つの前で王が止まると、2人兵士が扉を開け王はさっさと部屋の奥に入

つていつたしまつた。

「アキラ向をしてこむへ。早くせこらんか。」

『あはー』

「お前はここ歳してもうとじつかりした返事ができなにのか?」

『いい歳してつてボクまだ11歳だけど・・・』

「まだ寝ぼけてるのか?お前のよつな体格で11歳はありえないだ
から。それとも王である私をからかつてるのか?」

『からかうなんてそんなつもつけないですよ・・・本当に11
歳ですもん・・・』

「まあーー、風呂を用意した。ずっと裸だったのだからされー
してよく体を温めろよ。お前に衣服も用意しておこしてやるが。」

『・・・・あらがとう』『やれこます。』

(お風呂は助かる~森歩いたからよいきつたし。)

その部屋にはものすゞジヤグジーの泡風呂があった。アキラは田
を輝かせて泡風呂に飛び込んだ。

「やばこわちーー これ泳げるじゃん 」

体もきれいになつたしすっかり温まつたので、用意してくれた洋服
に着替えた。それは黒いスーツだった。ふと田の前の姿見みてア

キラは驚いた。

『…………誰これ。』

それは自分の知っている柊 アキラではなかつた、姿見に立つている人物は、身長185センチぐらいの整つた顔を持つてゐる18歳ぐらいの好青年だつた。

『これ、ボク?』

用意してもらつたスースが妙に鏡に映つた青年に似合つていてます
ます整つた顔を強調してゐた。

『ボクすごい成長した? つてかかこいい・・・夢だからつてここまで変えなくともいいのに。あつ、だから王様いい歳してつていつたのか!』

扉を出て廊下にでると1人の兵士が立つて待つてゐた。

「アキラ様、王がこちらでお待ちです。」

『あつはい』

(じゃなくてつ)

『はいっ!』

第1章（後書き）

第1章最後まで読んでくださってありがとうございました。
初めて小説を書いて見たので、文章が上手くまとまっていなかつた
り、漢字が苦手なの間違っているかもしません；；

いらっしゃった方がいいなど意見があつたらお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4697d/>

星の下の世界

2011年1月16日01時20分発行